

	発行者の略号	東書	三省堂
	書名	新しい書写	現代の書写
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	確かな「書く力」を身につけさせ、それを日常に生かす活用力を養い、自らの文字を正しく整ったものにしていく課題解決の過程で、自主・自立の精神を養い、文字と向き合う心を育てることをねらいとしている。	学習の見通しをもち、主体的に学習を進め、次の学びへの意欲が得られるように構成するとともに、日常生活・社会生活の中で活用できる書き方のポイントがひとめでわかるようにしている。さらに、学習したことを、多様な「書く」場面で主体的に活用する力をつけ、文字文化の担い手として、文字を手書きすることの意義を見つめ直すことをねらいとしている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①文字を正しく整えて速く書くための知識・技能を系統的に整理して「書写のかぎ」と名付け、原則1単元に1事項配置して、確実な習得を図るよう工夫。 ②「見つけよう」で文字から「書写のかぎ」をみつけ出したり、「生かそう」で「書写のかぎ」を他の文字に応用したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力を養えるよう配慮。 ③巻頭の「書写で学ぶこと」で、書写学習の意義を知って学習の見通しを持ち、将来にわたって自分の文字をより良くしようとする態度を育てるよう工夫している。	①毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うことをふまえ、毛筆学習のあとには硬筆で確かめられるようにし、学習内容の定着や、他の文字にも応用できる力がつくよう工夫している。 ②「基礎編」を設け、姿勢や用具の扱い方など、丁寧に解説し、「書き方を学ぼう」を設け、学習のポイントを明確に提示。「振り返ろう」「書いて身につけよう」で実践的な力がつくよう工夫。 ③宛名や伝票の書き方など、生活に必要な書式を提示。 ④手書き文字の魅力を伝え広めながら社会で活躍する人物を取り上げることで、文字を手書きにすることの意義を認識できるとともに、職業観を養えるよう工夫。
	(イ) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね良い	概ね良い
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①巻頭の「書写で学ぶこと」「書写の学習の進め方」で、見通しをもって、主体的に学習に取り組めるように配慮。 ①単元末の「振り返って話そう」で対話をとおして学習を振り返ることで、思考を深めて次の学習への意欲を高められるように工夫。 ②巻末の「書写活用ブック」や「生活に広げよう」では、国語との連携を図り、手紙やポスター、本のポップ、パンフレットなど、言語活動と関連する教材を積極的に取り上げている。 ②国語や他教科の学習と連携している単元・教材には、「教科書関連マーク」をつけて意識付けを図っている。 ④文字文化コラムを設けて、文字の歴史や用具・用材、手書き文字と活字、社会の中で使われる手書き文字など、取り上げている。 ④書き初めにより伝統的な文字文化についての理解を深める工夫。 ⑥「小学校の学習を振り返ろう」により、小学校書写との円滑な接続。 ⑥3年生に、書道の芸術性につながる文字の表現効果を学ぶ単元や、高校の内容を紹介するコラムなどを設けたり、書道で扱う古典作品の写真を掲載したり、興味・関心を高めている。 ⑦インターネット、タブレット等を活用して、毛筆の運筆動画や、関連する国語の教科書ページを見ることができる。 ⑧⑨紙面内の学習要素の位置を固定化。 ⑧⑨右利きでも左利きでも教材文字が見やすいように、教材文字を上、書き込み欄を下に配置。 ⑧⑨ユニバーサルデザインフォントを使用。	①学習の見通しをもちやすいよう、冒頭で「学習の流れ」について解説し、「目標」「振り返り」を設け、主体的に学習に臨めるようにしている。 ①各教科の「見つけよう・考えよう」や「やってみよう」では、対話をとおして書写の学習を深められるよう工夫。 ②学習した内容を、他教材や他教科・社会生活で活用できるようにしている。 ④「資料編」や伝統文化に親しむ資料にふれることを通して、幅広い知識を得られるようにしている。 ⑥「基礎編」や楷書の教材では、小学校での学習内容を整理して確認。 ⑥3年の教材では発展的な内容を取り上げ、高等学校芸術科書道への興味・関心が広がるようにする。 ⑦「基礎編」では、書写の学習に役立つ動画資料として、デジタルコンテンツを提供。二次元コードで、硬筆、毛筆の姿勢や持ち方、運筆、用具の使い方が確認できる。 ⑧⑨朱墨を使った二色使いや、筆の移動を示すマークなどを用いる事で、視覚的に理解できるよう工夫。 ⑧⑨アイコンで学習内容や流れが直観的に捉えられるよう工夫。 ⑧⑨カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲を受け、全ての生徒にとって見やすく、わかりやすい配色。 ⑧⑨読みやすさ、学びやすさを追求して開発した、独自の明朝体・ゴシック体。 ⑧⑨色による区別に加えて、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手掛かりを入れている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①学年配当時に照らした適切な単元数、分量。 ②AB版のワイドな紙面を活用して、図版が大きく資料性が高く、書き込み欄が充実している。	①各学年の配当字数の中で無理なく学習計画が立てられる分量。	
イ 教科・種目別の観点	① 毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされているか。	①硬筆文字から「書写のかぎ」を発見し、→毛筆で書くことで確認→硬筆で他の文字を書く。 ①毛筆と硬筆の配分を考慮。	①毛筆で書いて確かめた内容を、「書いて身につけよう」などの豊富な書き込み欄をとおして、普段の硬筆の文字に生かすことができるようにしている。
	② 文字を正しく整えて速く書く能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。	②姿勢図、用具の持ち方、扱い方などをカラー写真で掲載。 ②運筆を正しく行うための朱墨の図版。	②「書き方を学ぼう」では、正しく整った読みやすい文字を速く書くためのポイントを整理し、他の文字にも応用できる力がつくよう工夫。 ②朱墨を用いて、穂先の位置や筆脈などが理解出来るよう工夫。
	③ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。	③「生活に広げよう」では、生徒の身近な場면을題材に掲載している。ポップ、案内状、手紙、ポスター、年賀状、話し合いメモなど（「書写活用ブック」）	③「資料集」では学習場面・社会生活での書字をサポートする例を豊富に示している。手紙・送り状・のし袋・願書・原稿用紙など

	発行者の略号	教出	光村
	書名	中学書写	中学書写
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	自分の文字を教材文字と比べて課題を見つけ、その解決方法を見通して取り組むことで他の文字に活用し、一般化できるようにしている。また、その過程で自ら考えたり、仲間との対話をとおして気づいたりし、生きてはたらく書写力や、次の時代に向けた文字文化と豊かにかかわる主体的な文字の使い手を育てることをねらいとしている。	「学習の進め方」を示すことによる学びやすさ、硬筆を繰り返し練習することによる書く力の定着、書写で身につけた力を各教科の学習場面や学校生活・社会生活に生かせるような教材を位置付けたことにより、学びと生活を直結させることをねらいとしている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①はがきや手紙、包み紙や小包伝票の書き方を習得することで、幅広い知識と教養を身につけられる。 ②「課題選択教材」を用いることで、自らが課題を設定し、解決に向けて取り組めるように配慮されている。 ②③多様な手紙やはがきを書く活動を取り入れたことで、書いて伝え合うことを人生や社会に生かせるように配慮されている。(例：職場体験でお世話になった地域のかたへの手紙、恩師への礼状、暑中見舞い、年賀状、絵はがき 等) ③教材の言葉、文章をとおして、生命を尊ぶ心の育成や、自然、環境を意識できるように配慮されている。	①手紙やはがき、原稿用紙等の書式を整理して示し、身につけた書写力を日常生活に生かす手がかりとしている。 ①②身のまわりにある文字を取り上げた「全国文字マップ」や、ユニバーサルデザイン書体を扱ったコラム等、文字や文字文化への理解を高める教材を随所に位置づけている。 ③社会で活躍する人物の言葉や手書き文字を紹介することで、文字を手書きすることの意義を認識できるとともに、生徒が自ら夢を描き、それに向かって行動しようとする意欲を高められるように工夫されている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ねよい	概ねよい
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「目的に合わせて書こう」「書写をとおして学んでいくこと」を通して、3年間で学習する内容や身につけたい力について見通しがもてるように工夫されている。 ①基本紙面では、学習ステップがわかるアイコン（「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」）を提示することで、学習活動をナビゲートし、生徒自らが学習手順をわかるように工夫されている。 ②習得した書写の力を、教科横断的な学習活動や日常生活に活用できるように関連を図っている。(例：横書きノートの例、植物観察のメモとレポート 等) ④文字の変遷や短冊と色紙、日本建築と書、歴史上の人物が書いた文字、各都道府県の城址の文字等を知ること、我が国の伝統と文化を尊重できるように配慮されている。 ⑥小学校での学習内容を図版でまとめ、既習事項に新しい学習内容を無理なく積み重ねていけるように配慮されている。 ⑥「発展」を設けることで、高等学校で学習する内容への興味・関心が高まるようにしている。 ⑦インターネット、タブレット等を活用して、毛筆の運筆動画を見ることができる。 ⑧⑨読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ⑧⑨色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色の工夫をしている。 ⑧⑨書写の学習用語は本文と書体を変えて赤の太字で示したり、硬筆の作例に入れる書字のポイントの色文字で示したりすることで、要点が伝わりやすいように配慮している。	①巻頭に3年間の目標を示すとともに、行書についてわかりやすく解説されている。 ①全教材に「目標」「振り返り（自己評価の観点）」を明示し、学習の展開をひと目でわかるようにする（1「考えよう」→2「確かめよう」→3「生かそう」）ことで、生徒が主体的に学習に臨み、知識・技能の定着や自己の変容を高められるように構成されている。 ①各教材の冒頭等で、文字の原理・原則について考えたり、話し合ったりする活動が設定され、対話をとおして書写の学習を深め、生徒の主体性や思考力・判断力・表現力を養えるように配慮されている。 ②「行書を活用しよう」や「目標を書こう」では、豊富な作例を掲載し、書写で習得した知識・技能を、他教科や日常生活に役立てる方法をイメージできるように工夫されている。 ④身のまわりにある文字を取り上げた「全国文字マップ」や、書の用具の製造工程の紹介、文字や文字文化への理解。関心を高める教材がある。 ⑥巻頭に小学校での学習内容をまとめ、小学校からの円滑な接続を図るとともに、基礎・基本を活用の中で定着できるよう配慮している。 ⑦「二次元コード」（動画資料の用意）を教材ごとに配置していることにより、適宜タブレット等で資料を見ることができている。 ⑧⑨目次や小さい文字には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いている。 ⑧⑨学習の流れをアイコンで示したり、主たる学習要素は大きく丁寧に、それに付随する要素は小さく簡潔に示したりすることで、学習のねらいが明確で大切なことがつかみやすい構成になっている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	②教科書を大判化（AB版）し、見開きの右側に見本、左側に朱墨で書き順や筆脈を示している。	①1教材1事項で構成し、学習のねらいを焦点化することで効率的に力をつけられるように配慮している。 ①表紙は明るくさわやかな印象。 ②見本のほとんどを見開きにすることで半紙原寸大で示し、字の大きさやバランスを捉えやすくしている。	
イ 教科・種目別の観点	① 毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされているか。	①良い姿勢を保つ工夫や、鉛筆・筆の持ち方、扱い方を掲載している。 ①見開きで硬筆（「試し書き」）→毛筆（「練習」）→硬筆（「まとめ」）で構成され、毛筆で学習したことを硬筆にいかせるように工夫されている。	①教材ごとに、毛筆を硬筆に生かして確認ができるような構成になっている。 ①書写ブックを用いることで、行書で学んだことを硬筆に生かせるように、練習を充実させることができる。
	② 文字を正しく整えて速く書く能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。	②毛筆では、穂先の通り道を朱墨で示すことで、筆遣いがわかりやすいように配慮されている。	②毛筆教材では、朱墨や筆使いを示す写真を用いて、筆脈や穂先の動きを把握しやすいように工夫している。 ②「書き方を学ぼう」では、正しく整った読みやすい文字を速く書くためのポイントを整理し、他の文字にも応用できる力がつきょうに工夫されている。
	③ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。	③身につけた書写力を生かせる場面やその工夫を多く取り上げている。（「横書きノートの例」（社会）、植物観察のメモとレポート」（理科）、はがきや手紙、包み紙や小包伝票の書き方 等）	③「日常に役立つ書式」では、手紙・はがきや、送り状の書き方を掲載し、学習場面・社会生活での書字をサポートする例を示している。